

フロンティア事業助成 実績報告

団体名	支援の会ひまわり	代表者名	小泉 邦昭
事業名	通院支援レベルアップ事業		

事業実施実績

年 月 日	活 動 内 容
平成22年 4月18日	平成22年度第1回運行会議 運行会議とは、ひまわりの理事・事務局員・ドライバー・見守り全員を対象とした会議であり、日々の業務の中で起こった問題を出し合って協議する。この運行会議では、見守りの業務内容をめぐって混乱が起きていることが問題提起され、マニュアルを作成することになった。
5月	マニュアル作成の参考にするために、見守り全員にアンケートを実施。
6月 6日	第2回運行会議・第1回研修 マニュアルを作成し、この運行会議で配布する。 研修は、西宮署交通課警察官による安全運転講習（ドライバー向け）
7月20日	広報誌「ひまわり通信第8号」を発行 この通信において見守り全員の顔写真とともに各自の短いコメントを掲載。
8月 8日	第3回運行会議 見守りがどこまで世話をするのかをめぐって議論になった。病院により見守りに対する要望が異なることも報告された。
10月24日	第4回運行会議・第2回研修 見守りがあるため介護ヘルパーの雇用をやめた人に対し、病院から介護ヘルパーを再度雇ってほしいという要望があり、本人がそれに応じたという報告があった。見守り業務の限界を再認識させられた。 研修では、ドライバーと見守りに分かれて、ドライバーはパンク修理の現地訓練を行い、見守りはヘルパー資格の保有者を講師として、車椅子の押し方や、車椅子からベッドに移るときの介助、車椅子に乗せるときの介助などについて練習した。
12月26日	第5回運行会議・第3回研修 見守りが急に休んだ場合の連絡体制が不備であるとの指摘があった。また、送迎車が3台続いて病院に到着したときは、見守りが対応しきれていないとの指摘もあった。 この研修では、男性看護師による講演を実施。人工透析とそのトラブルについて学習した。ドライバーや見守りが日々接する患者がどのようなトラブルをかかえているかを理解してもらうのが狙い。
平成23年 2月27日	第6回運行会議・第4回研修 研修は西宮消防署内において普通救急救命の講習を受講した。

効果と成果

現行の介護保険制度では、病院内の介護については原則として保険の適用外であるが、高齢の透析患者は、病院玄関からベッドまでの移動や更衣において介助を必要とする人が多く、院内介助の需要は大きい。本会の見守り事業は、その需要に応え、介護保険制度のスキマを埋める役割を果たしている。

見守りが声かけをしてくれたり、車いすを押してくれたら、そばにいてくれることにより、家族の手を借りなくても安心して通院でき、高齢者の自立した生活の一助となることにより、老人福祉にも貢献している。

病院内の見守りがいることにより、病院と本会との連携が従前よりスムーズにいくようになったという効果や、見守りが記録する「勤務チェック表」により、本会が通院支援している患者会員の身体状況を、従前より把握しやすくなったという効果もある。

収支決算書

(収 入)

項 目	金額 (円)
フロンティア事業助成金	1,000,000
自己資金	3,643,152
合 計	4,643,152

(支 出)

区分	項 目	金額 (円)	左のうち助成対象金額 (円)
直接 経 費	見守り賃金	3,744,400	3,744,400
	見守り交通費	732,510	732,510
	小 計	4,476,910	4,476,910
間 接 経 費 (一 般 管 理 費)	通信費	166,242	166,242
	小 計	166,242	166,242
合 計		4,643,152	4,643,152